—九州歯科学会主催講演会のご案内—

平成 15 年度九州歯科学会主催講演会を下記の日程で開催しますので、多数のご参加をお願い致します。

「Pathogenic strategies of *Porphyromonas gingivalis*」

講師：Prof. Richard John Lamont

(Oral Biology department, University of Florida)

日時：平成 15 年 12 月 8 日（月）16 時～17 時

会場：九州歯科大学附属図書館視聴覚教室

—抄録—

「歯周病原菌 *Porphyromonas gingivalis* の病原性発現機構解明への新しい戦略」

Richard John Lamont

Florida 大学歯学部教授（口腔生命科学講座）

成人の口腔内において非常に高頻度に認められる疾患である歯周病は、複数の口腔細菌による複合感染によって引き起こされることが、過去の膨大な研究結果から明

らかとなっている。我々は、複雑な口腔フローラであるデンタルプラークの形成機序に興味を持ち、その構成細菌の中でも最も歯周病との関連性が高いと考えられる *Porphyromonas gingivalis* に焦点をあてて研究を行っている。また、*Porphyromonas gingivalis* と口腔常在菌である *Streptococcus gordonii* 間の共凝集に関わる菌体表層成分の研究を継続して行っており、興味深い結果を得ている。近年、共凝集することによって生じるシグナルが *Porphyromonas gingivalis* の菌体構成成分の発現量の変化を惹起し、同菌のバイオフィルム形成能を高めることも遺伝子工学を駆使した研究により明らかにしている。さらに、宿主－細菌間相互作用についても研究を進めており、*Porphyromonas gingivalis* が宿主歯肉上皮細胞に付着するだけでなく、同細胞内に侵入し、一定時間生存していることを共焦点レーザー走査蛍光顕微鏡を駆使した研究で世界に先駆けて明らかにした。加えて、ここ数年、同菌が付着侵入することによって宿主細胞内シグナル伝達系に引き起こされる変化とその影響についても報告したい。